



決め手は、青森県産。

特産果樹生産情報第3号
(6月2日～6月28日)

平成30年6月1日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部



**生育に応じた適期管理の徹底を！
おうとうの裂果防止対策を万全に!!
もも、西洋なしは追加散布で、病虫害防除対策を万全に!!!**

I 要約

- 生育は、各樹種とも平年より早まっている。
- ぶどうは、摘心、ジベレリン処理、摘粒等の管理作業を適期に行う。
- おうとうは、裂果防止のため雨よけ被覆を遅れないように実施するとともに、適期収穫に努める。
- ももは、硬核期（例年は満開44～75日後）前に仕上げ摘果を終え、良品生産と樹勢維持に努める。昨年、せん孔細菌病の発生が多かった園地では、薬剤散布だけでなく耕種的防除も徹底する。
- ももと西洋なしでは、生育が早く進んでいるため、新たに「落花50日後頃」を設けて追加散布を行う。
- なしは、落花25日後頃までに仕上げ摘果を終え、良品生産と樹勢維持に努める。西洋なしでは、6～7月の幼果期は輪紋病に最も感染しやすいので、10日間隔で薬剤散布を行う。

II 生産情報

1 生育概況

生育は、各樹種とも平年より早まっている。

・ぶどう

露地栽培では展葉日が、五戸（りんご研究所県南果樹部）の「キャンベル・アーリー」では平年よりも5日、「スチューベン」では五戸で平年並み、黒石（りんご研究所）で7日早かった。

無加温ハウス栽培では、「キャンベル・アーリー」の開花日が、五戸で平年よりも3日、三戸（県生育観測ほ）で2日遅かった。

・おうとう

「佐藤錦」の落花日は、五戸で平年よりも3日、黒石で5日早かった。

・もも

「川中島白桃」の落花日は、五戸で平年よりも3日早く、黒石で5日早かった

・うめ

「豊後」の落花日は、平年よりも6日早かった。

・西洋なし

落花日は、「ゼネラル・レクラーク」、「ラ・フランス」とともに平年よりも7日早かった。

・日本なし

「幸水」の落花日は、平年よりも7日早かった。

(1) ぶどうの生育ステージ

(5月31日現在)

品 種	場 所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日	ハウス被覆日
スチューベン	五戸	本年	4.28	5.13	—	—	—	/
		平年	4.30	5.13	6.23	6.26	7.2	
		前年	4.29	5.11	6.24	6.26	7.4	
	黒石	本年	4.25	5.3	—	—	—	
		平年	4.29	5.10	6.18	6.21	6.30	
		前年	4.26	5.5	6.18	6.21	6.27	
キャンベル・ アーリー (露地)	五戸	本年	4.23	5.7	—	—	—	
		平年	4.29	5.12	6.20	6.23	6.27	
		前年	4.24	5.8	6.21	6.23	6.28	
キャンベル・ アーリー (無加温ハウス)	五戸	本年	4.10	4.27	5.31	—	—	3.23
		平年	4.16	4.29	5.28	5.30	6.5	3.23
		前年	4.13	4.26	5.22	5.24	5.30	3.22
	三戸	本年	4.3	4.15	5.15	5.17	5.21	3.19
		平年	4.5	4.14	5.13	5.16	5.19	3.15
		前年	4.5	4.15	5.14	5.17	5.22	3.18

注1) 場所は五戸がりんご研究所県南果樹部、黒石がりんご研究所、三戸が三戸町川守田（県生育観測ほ）

2) 平年値は1998～2017年（20年間）の平均。ただし、スチューベンの黒石は2000～2017年（18年間）の平均、キャンベル・アーリー（無加温ハウス）の五戸は2005～2017年（13年間）の平均

(2) おうとう、もも及びうめの生育ステージ

(5月15日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
おうとう	佐藤錦	五戸	本年	4.19	4.29	4.27	4.28	5.11
			平年	4.23	5.3	5.2	5.4	5.14
			前年	4.19	4.30	4.30	5.2	5.14
		黒石	本年	4.20	4.30	4.27	4.29	5.10
			平年	4.23	5.5	5.2	5.4	5.15
			前年	4.20	5.4	4.30	5.3	5.14
もも	あかつき	五戸	本年	4.13	4.30	4.28	4.30	5.9
			平年	4.16	5.6	5.3	5.6	5.14
			前年	4.14	4.30	4.28	4.30	5.8
	川中島白桃	五戸	本年	4.13	5.1	4.30	5.1	5.15
			平年	4.18	5.9	5.6	5.9	5.18
			前年	4.15	5.4	4.30	5.3	5.12
黒石	本年	4.20	5.5	5.1	5.2	5.11		
	平年	4.22	5.10	5.5	5.8	5.16		
	前年	4.18	5.10	5.2	5.4	5.11		
うめ	豊後	五戸	本年	3.23	4.26	4.19	4.20	4.25
			平年	3.21	4.27	4.22	4.25	5.1
			前年	3.21	4.25	4.18	4.20	4.29

注) 平年値は1998～2017年(20年間)の平均。ただし、佐藤錦の黒石は2000～2017年(18年間)の平均、川中島白桃の五戸は2004～2017年(14年間)の平均、黒石は2003～2017年(15年間)の平均

(3) なしの生育ステージ

(5月15日現在)

樹種	品種	場所	年	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
西洋なし	ゼネラル・レクラーク	五戸	本年	4.6	4.23	4.29	4.30	5.6
			平年	4.12	4.29	5.5	5.7	5.13
			前年	4.11	4.25	5.3	5.4	5.10
	ラ・フランス	五戸	本年	4.5	4.25	4.29	4.30	5.6
			平年	4.12	4.29	5.5	5.7	5.13
			前年	4.10	4.26	5.3	5.4	5.10
日本なし	幸水	五戸	本年	4.7	4.30	4.29	4.30	5.10
			平年	4.13	5.2	5.6	5.8	5.17
			前年	4.12	4.30	5.3	5.4	5.15

注) 平年値は1998～2017年(20年間)の平均

2 作業の重点

(1) ぶどう

ア 新梢の誘引、結束（露地、無加温ハウス）

薬剤や日光の通りを良くするため、新梢は随時角度や間隔を調整しながら架線に誘引し、結束する。

イ 露地

(ア) 摘心（1回目）

開花1週間前頃に行う。下表に従い、品種や樹勢に応じた摘心を行う。

品種別摘心方法（1回目の摘心）

品 種	樹勢	摘心部位	副梢の取り扱い
スチューベン	強	第1花穂上位5枚	①すべての副梢を欠いた後発生した先端の副梢を残す。
	中		②上位1本の副梢を残し、下位の副梢は摘除する。 注)を参考に①か②を選択する。
	弱	第1花穂上位5枚	上位2本の副梢を残す。
キャンベル・アーリー		第1花穂上位3~4枚	上位2本の副梢を残す。
シャインマスカット		第1花穂上位5枚	上位1本の副梢を残す。

注) 副梢の取り扱い（スチューベン）

①では、着粒密度は高くなるが、果粒が小さくなり、熟期が遅れる。

②では、品質、着色は良くなるが、着粒密度がやや劣る。

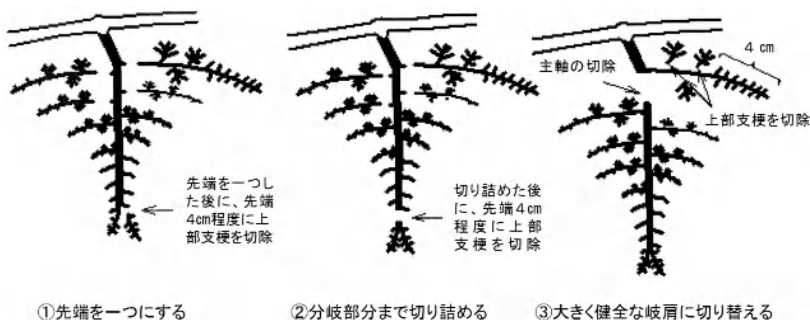
(イ) 花穂の整形

開花5日前頃から1~2花咲き始める時が適期である。

キャンベル・アーリーでは、岐肩、岐肩下の長い支梗や軸の間隔が広い支梗を切除し、花穂先端の切り詰めをする。

スチューベンは岐肩のみを切除する。

シャインマスカットでは、岐肩と上部支梗を切除し、花穂の先端4cmを残す。ただし、先端が二股などの異常花穂が多く利用しなければならない場合は、①先端を一つにするか、②分岐部分まで切り詰めるか、③大きな健全な岐肩に切り替えて、先端4cmとして利用する方法もある。



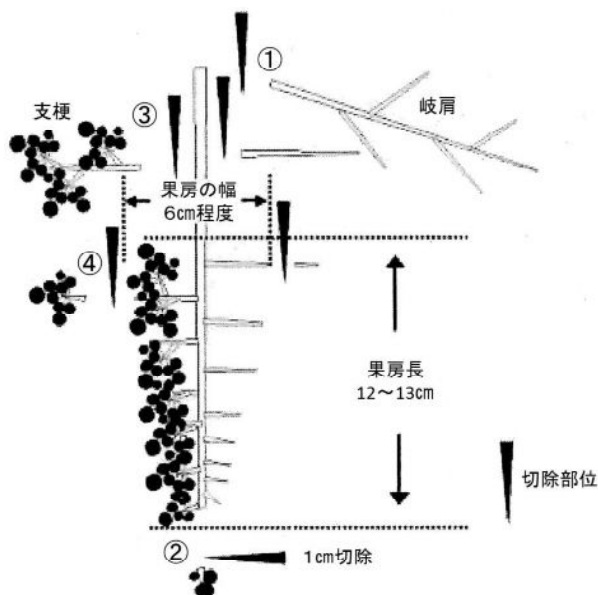
シャインマスカット異常花穂への対応の仕方

(ウ) 果房の整形

スチューベンでは、円筒形密着果房を生産するため、下表に従い整形する(図参照)。下から1 cmの位置に線を引いた縦13.5cm、横6 cmの型紙を果房にあてがうと正確にできる。

スチューベンの円筒形密着果房を生産するための果房整形法

処理時期	処理方法
開花前(6月中旬頃)	・ 岐肩を切除する(図の①)
果粒が小豆粒大頃 (7月上旬頃)	・ 果房の先端を1 cm切除する(図の②) ・ 果房長が12~13cmになるように果房上部の支梗を切除する(図の③) ・ 残した果房は幅が6 cm程度になるように切り詰める(図の④)
果粒が小豆粒大以降	・ 無核小粒果を摘粒する



スチューベンの果房整形法

スチューベンの整形用型紙の使用法

(エ) 追 肥

追肥は開花直前頃に行う。施肥量は地力の高い園地で標準施肥量の10~20%、地力の低い園地では20%とする。

(オ) ジベレリン処理

○シャインマスカット

無種子化を確実にするため、ストレプトマイシン処理を行ってから、ジベレリン及びフルメット処理を行う。

<手順>

①花穂の整形

ストレプトマイシン処理に先立ち、開花始め頃までに花穂の先端を4 cm残して整形する。

②ストレプトマイシン処理

満開予定日14日前～開花始期にストレプトマイシン200ppm溶液を花房に散布または浸漬する。

③ジベレリン処理

ジベレリン処理は、必ず花穂の先端まで開花してから行う。

【ジベレリン2回処理の場合】

1回目は無種子化のために、満開時～満開3日後にジベレリン25ppm溶液に5 ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。処理適期は、花穂先端まで咲ききったときである。

2回目は果粒肥大促進のために、満開10～15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。

【ジベレリン1回処理の場合】

満開3～5日後（落花期）に、ジベレリン25ppm溶液に10ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。

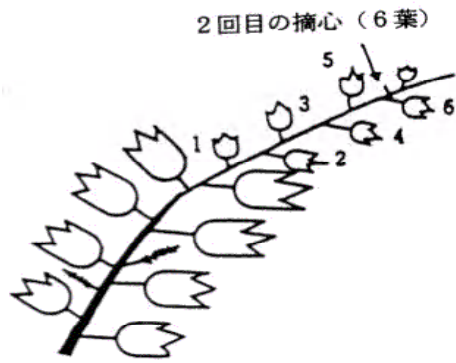


シャインマスカットの満開時の花穂

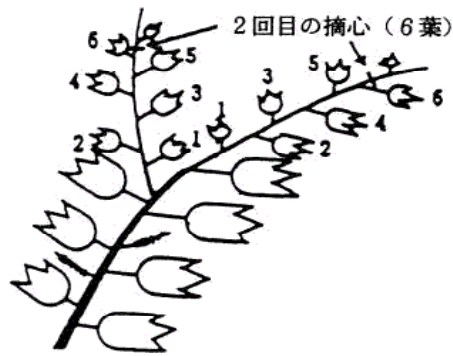
イ 無加温ハウス

(ア) 摘心（2回目）

2回目の摘心時期は副梢の展葉枚数が8～9枚になった頃で、1回目の摘心後に伸びた副梢を5～6枚残して摘心する。副々梢は摘心部位の先端のみ残して、他はすべて摘除する。これ以降も副々梢が伸びる場合は3～5葉で摘心を行う。



スチューベン、シャインマスカットの摘心（2回目）



キャンベル・アーリーの摘心（2回目）

(イ) 摘 房

摘房は早めに行うほど養分の浪費が少なく、その効果も大きいですが、キャンベル・アーリーは花振るいしやすいので、結実し、果房の形が決まってから行う。着房数の目安は次のとおりである。

- 葉数13枚以下で伸びの止まっている結果枝：原則としてすべて摘房
- 葉数14～18枚の結果枝：1果房
- 葉数20枚前後の結果枝：1～2果房
- 葉数25枚以上の結果枝：2果房

シャインマスカットなどの大粒種は、1結果枝に1果房とする。

(ウ) 摘 粒

摘粒は果粒の数や果房の大きさを制限することにより、果房の品質を向上させるほか、密着型の品種では、裂果を防止する仕上げの作業である。

実施時期は実止まりし、果粒の大きさが小豆大の頃（満開15～25日後頃）が適期である。その後、収穫直前まで随時、障害果などを取り除く。シャインマスカットは大豆粒大頃までに終わるようにする。

品種別の摘粒の目安は表のとおりである。小粒果やさび果などの障害果を除去し、果粒が外向きに並ぶように内側の果粒を除去し、目安の果粒数にする。

品種別目標果房重と果粒数（摘粒の目安）

品 種	果房重 (g)	1粒重 (g)	果粒数 (粒)
キャンベル・アーリー	300	5.5	50～60
シャインマスカット	450	10.0	40～50

(エ) 温度管理

外気温が30℃を超えると光合成能力が著しく低下し、また果実の日焼けなど高温障害の発生も懸念されるので、換気を行う。

ハウスのサイドや妻などの被覆資材の除去や巻き上げは、最低気温が10℃以上になる6月上旬頃から行う。

ウ 病害虫防除

灰色かび病やべと病等の重要な防除時期になるので、各病害に対する有効薬剤を選択し、遅れないよう適期に薬剤散布を行う。

(ア) 薬剤散布

キャンベル・アーリー基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
開花10日前頃 (6月上旬)	アリエッティC水和剤800倍 又はホサト水和剤80 800倍 又はインターフロアブル 8,000倍 又はホリワンフロアブル 2,000倍	ベストガード水溶剤1,000倍 又はパダンSG水溶剤1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2500
開花直前	アリエッティC水和剤800倍 又はホサト水和剤80 800倍 又はゲッター水和剤1,500倍	ベストガード水溶剤1,000倍 又はパダンSG水溶剤1,500倍 又はジノテフラン水溶剤 ^注 2,000倍	2500
落花直後	ロブラール水和剤 1,500倍 又はホリバリン水和剤 1,000倍 又はスイッチ顆粒水和剤2,000倍 又はフルピカフロアブル 2,000倍	アグロスリン水和剤2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍 又はジノテフラン水溶剤 2,000倍	2500

注1) ジノテフラン水溶剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

2) アリエッティC水和剤は殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する（物理性の悪化）。

スチューベン基準

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
開花10日前頃 (6月上旬)	アリエッティC水和剤800倍 又はキノトール水和剤40 600倍 又はインターフロアブル 8,000倍 又はホリワンフロアブル 2,000倍	ベストガード水溶剤1,000倍 又はパダンSG水溶剤1,500倍 又はアグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍	2500
開花直前	アリエッティC水和剤800倍 又はゲッター水和剤1,500倍	ベストガード水溶剤1,000倍 又はパダンSG水溶剤1,500倍 又はジノテフラン水溶剤 2,000倍	2500
落花直後	ロブラール水和剤 1,500倍 又はホリバリン水和剤 1,000倍 又はスイッチ顆粒水和剤2,000倍 又はフルピカフロアブル 2,000倍	アグロスリン水和剤2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍 又はジノテフラン水溶剤 2,000倍	2500

注) キャンベル・アーリー基準と同じ。

(イ) 灰色かび病対策（キャンベル・アーリー対象）

「開花10日前頃（6月上旬）」の薬剤散布後、ヤマセなど天候不順が続き、次回の「開花直前」までの散布間隔が開きすぎると灰色かび病の多発が懸念されるので、「開花見込みの1週間前頃」にピクシオDF2,000倍を特別散布する。

(ウ) ベと病対策（スチューベン対象）

軟弱な生育を避けるために、窒素肥料を施用し過ぎない。発病葉や発病果房は見つけ次第、摘み取って処分する。排水不良園では、排水溝を掘って、雨水が長く溜まらないようにする。

発生の多い園地では、「開花10日前頃（6月上旬）」にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40を、「開花直前」にアリエッティC水和剤を選択し、「落花直後」にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。ただし、ランマンフロアブルはポリベリン水和剤と組み合わせない。

(2) おうとう

ア 裂果防止対策

果実を雨にあてないことが最も効果的であるので、雨よけ施設を利用する。被覆時期は、着色した果実が見え始めた頃からとし、樹体に悪影響を及ぼさないよう収穫が終わったらできるだけ早く被覆を除く。

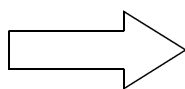
高温障害防止のため、樹冠上部と雨よけ施設のフィルム面との間には、1.5～2.0m程度の空間を作るようにする。

イ 葉摘みによる着色の向上

葉摘みの時期は、概ね収穫予定の7～10日前頃の果実の着色がある程度進んでから行う。摘み取る葉は、短果枝の基部の果実に直接覆いかぶさっている葉を主体に実施する。過度の葉摘みは、果実品質を低下させたり、翌年の花芽の充実不良、樹勢の低下を招くおそれがあるので摘み取る量は最小限にとどめる。



葉摘み前



葉摘み後

葉摘みの方法

ウ 収 穫

収穫時期の判定は、満開日からの日数を目安（※右表参照）にしながら、果皮の着色程度、食味、果実の用途などから総合的に行い、収穫は成熟したものから順次数回にわたって行う。

収穫はなるべく朝夕の涼しい時に行うが、日中の高温時に収穫する時は、収穫後直ちに冷涼な日陰に置いて果実温を下げ、鮮度を保つ。

やむを得ず降雨中に収穫した場合は、扇風機などを利用して果実を乾燥させてから出荷する。

品 種	満開日から 収穫始め までの日数
紅さやか	45～50日
佐藤錦	45～55日
北 光	50～60日
紅秀峰	60～70日
南 陽	60～70日
サミット	60～70日

エ 病虫害防除

灰星病や炭疽病、ショウジョウバエ類等の重要な防除時期になるので、各病害虫に対する有効薬剤を選択し、遅れないよう適期に薬剤散布を行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺 菌 剤	殺 虫 剤	散布量 ／10 a
満開35日後頃	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はアンビルフロアブル 1,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍	—————	500ℓ
収穫前 (佐藤錦)	アミスター10フロアブル 1,000倍 又はナリアWDG 2,000倍 又はインダーフロアブル 5,000倍	—————	500ℓ

注1) 「満開35日後頃」に、紅さやかななどの早生種に散布する場合、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

2) ストロビルリン単剤のアミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、ストロビルリン単剤は連続使用しない。

(イ) 灰星病対策

「満開35日後頃」以降、多発が懸念される場合は、「佐藤錦の収穫見込みの7日前頃」にパスワード顆粒水和剤1,500倍、インダーフロアブル5,000倍、ルビゲン水和剤3,000倍のいずれかを特別散布する。ただし、EBI剤（アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、インダーフロアブル、ルビゲン水和剤）は薬剤耐性の懸念があるので連続使用しない。

また、紅秀峰や南陽などの晩生種では、「収穫前（晩生種）」にアミスター10フロアブル1,000倍又はナリアWDG2,000倍を特別散布する。

(ウ) ショウジョウバエ類対策

被害果や取り残し果実はショウジョウバエ類の発生源となり、園内密度が高まるので、速やかに処分する。

発生が懸念される場合は、「満開35日後頃」及び「収穫前（佐藤錦、晩生種）」にテルスターフロアブル4,000倍又はスカウトフロアブル3,000倍も使用する。ただし、テルスターフロアブルとスカウトフロアブルの年間使用回数は、いずれも2回以内である。

(エ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

「満開35日後頃」及び「収穫前（佐藤錦、晩生種）」に見られた場合は、ショウジョウバエ類対策でテルスターフロアブル又はスカウトフロアブルを特別散布すると防除剤は必要ない。

(3) も も

ア 摘果

果実を残す程度は、短果枝では4～5本に1果、中果枝では1本に1果、長果枝では1～3果とする。着果量が少な過ぎると品種によっては核割れを生じ、果実が大きくなっても、品質、収量が低下するので注意する。

なお、満開44～75日後の硬核期（果実の肥大が鈍化し、核が硬化する時期）に過度な摘果を行うと、核割れや裂果を起こしやすいので注意する。

イ 新梢整理

新梢の伸長の盛んな6～7月と、収穫後の9月まで適宜行う。

太枝の背面や先端部から伸びた徒長的で生育旺盛な新梢は除去し、日当たりを良くする。

日焼け対策として、徒長枝は葉芽を必ず残して5～10cm程度に切る。

ウ 袋かけ

袋かけの効果としては、病害虫の防除、裂果の防止、着色の向上、風雨による果皮表面のさびの発生防止などがある。

袋かけの時期は、病害虫対策を主とする場合は、硬核期前に仕上げ摘果を終わらせ、薬剤散布後とし、6月末までに終える。袋かけ作業が遅れて6月20日以降になるときは、モモシンクイガ対策として防除剤を散布してから袋かけをする。袋はよくふくらませ、結果枝を抱かせて止金でしっかり止める。

エ 病虫害防除

本年は生育が早かったので、適正な間隔で薬剤散布を行うために、例年の「落花40日後頃」と「7月上旬」の間に「落花50日後頃」を新たに設けて、追加散布を行う。なお、薬剤の年間使用回数及び収穫前日数には十分注意する。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10a
落花20日後頃	マイコシールド 2,000倍 又はスターナ水和剤 1,000倍 (落花20日後頃～落花40日後頃に1～3回)	ダイジノン水和剤34 1,000倍 又はダースバンDF 3,000倍	4000
	ダコニール1000 1,000倍 又はチウラム水和剤500倍 又は水和硫黄剤 500倍		
落花30日後頃	チウラム水和剤 500倍 又は水和硫黄剤 500倍	スチオン水和剤40 800倍 又はダースバンDF 3,000倍	4000
	ダコニール1000 1,000倍 又はチウラム水和剤500倍	ダースバンDF 3,000倍 又はダントツ水溶剤2,000倍	
落花40日後頃	ダコニール1000 1,000倍 又はチウラム水和剤500倍	ダースバンDF 3,000倍 又はダントツ水溶剤2,000倍	4000
落花50日後頃 (追加散布)	ダコニール1000 1,000倍	サイノックス水和剤 1,000倍	4000
7月上旬	ダコニール1000 1,000倍 又はバルコートフロアブル 2,000倍	バイスロイドEW 2,000倍 又はイカズチWDG 1,500倍	4000

注1) チウラム水和剤：チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル

2) 水和硫黄剤：サルファーズル、イオウフロアブル

(イ) せん孔細菌病対策

昨年発生が多かった園地では、耕種的防除も必ず実施する。

6～8月に新梢に発生する夏型枝病斑は主要な伝染源になるので、速やかに枝ごと切り取って処分する。風を強く受ける地帯で多発するので、防風網の利用などの耕種的対策も合わせて行う。

「落花20日後頃」～「落花40日後頃」にマイコシールド2,000倍又はスターナ水和剤1,000倍も1～3回使用する。ただし、マイコシールドとスターナ水和剤は薬剤耐性の懸念があるので、同一薬剤を連続使用しない。



せん孔細菌病（夏型枝病斑）

(ウ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。発生が見られた場合は、「落花30日後頃」にスミチオン水和剤40、「落花40日後頃」にダントツ水溶剤、「7月上旬」にイカズチWDGを選択する。

(4) な し

ア 摘 果

仕上げ摘果は、落花25日後頃までに終了する。

果実を残す程度は、西洋なしのラ・フランスで4頂芽に1果、ゼネラル・レクラークで5.5～7頂芽に1果、日本なしの幸水で3～4頂芽に1果とする。

なお、結実が少ない場合は、多少障害があっても残し、適正着果量を確保する。

イ ジベレリンペースト（植物成長調整剤）による熟期促進

日本なしでは、ジベレリンペーストの利用により熟期を促進できる。摘果終了後、満開30日～40日後に、果梗に1果当たり20～30mgを専用のアタッチメントを用いて塗布する。

なお、塗布する際、果面にジベレリンペーストが付着すると、さびなどの原因となるので注意する。

ウ 夏季管理

(ア) 徒長枝の整理

徒長枝は、将来、結実枝として使用するもの以外は、早めに剪去する。徒長枝を切る際には、高切りせずに、枝の基部からきれいに剪去する。

(イ) 誘 引

適期は、枝がやわらかくなる6月頃である。主枝候補枝、更新枝を30度前後に誘引する。特に幼木時代は直立性が旺盛なため、誘引によって樹形を整える。

エ 追 肥

6月中旬に標準施肥量の20%程度を追肥する。なしの標準施肥量は、成木10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸6kg、カリ12kgである。

オ 西洋なしの病虫害防除

本年は生育が早かったため、適正な間隔で薬剤散布を行うために、例年の「落花40日後頃」と「7月上旬」の間に「落花50日後頃」を新たに設けて、追加散布を行う。なお、薬剤の年間使用回数及び収穫前日数には十分注意する。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花20日後頃	オキシラン水和剤 500倍 又はバフキン水和剤 1,000倍	ダイジノン水和剤34 1,000倍	400ℓ
落花30日後頃	ベルコート水和剤 1,000倍 又はデランフロアブル 1,000倍	—————	400ℓ
落花40日後頃	オキシラン水和剤 500倍 又はキャプレート水和剤 600倍	ジノテフラン水溶剤2,000倍	400ℓ
落花50日後頃 (追加散布)	ベルコート水和剤 1,000倍	スカウトフロアブル2,000倍	450ℓ
7月上旬	ストロビートライフロアブル 2,000倍 又はナリアWDG 2,000倍	ダイジノン水和剤34 1,000倍 又はダースバンドF 3,000倍	450ℓ

注1) ジノテフラン水溶剤: スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

2) ストロビルリン単剤のストロビードライフロアブル及び同じ系統の混合剤であるナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。

(イ) 輪紋病対策

6～7月の幼果期は輪紋病に最も感染しやすいので、10日間隔で薬剤散布を行う。なお、散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布する。

(ウ) 胴枯病対策

大枝の病患部は見つけ次第、削り取ってトップジンMペースト又はバッチレートを塗布する。小黑点病斑が形成されている枝や枯死した枝は見つけ次第、切り取って処分し、切り口にバッチレートを塗布する。

発生が多い園地では「落花20日後頃」、「落花30日後頃」及び「落花40日後頃」にトップジンM水和剤1,500倍も使用する。

(エ) 黒斑病対策（ゼネラル・レクラーク対象）

徒長枝は発生源となりやすいので、不要なものを剪去する。発病果は見つけ次第、摘み取って土中に埋める。

「落花40日後頃」はオキシラン水和剤を選択する。

(オ) カメムシ類対策

8月上旬まで断続的に成虫が飛来し、葉に産卵するので、卵塊を見つけ次第、つぶして処分する。ふ化幼虫が見られたら、分散する前に捕殺する。

発生が見られた場合は、MR. ジョーカー水和剤2,000倍を特別散布する。

(5) うめ・あんず

ア 新梢管理

6月中旬頃までに太枝の背面あるいは先端から伸びた勢力の強い枝は、果実肥大に影響を及ぼしたり日当たりや風通しを悪くするので取り除く。

イ 支柱入れ、枝吊り

枝葉の繁茂と果実肥大による重さで主枝が次第に下垂するので、枝裂けや樹形の乱れが生じないうちに、支柱を立てるか枝吊りを行う。

ウ 収 穫

(ア) う め

梅漬け用は果面の地色がわずかに抜けて、やや白みを帯びた頃である。梅酒用はこれより2～3日早めのまだ青いうちに収穫する。

(イ) あんず

果梗部の色が薄れて黄色に変わり始めた頃（果実がまだ軟らかくならないうちに）が適期である。また、収穫適期の期間が短いので、適期を逃さず、速やかに収穫を行う。

エ 病虫害防除

本年は平年に比べて生育が早まったため、例年の「6月中～下旬」の薬剤散布を「6月上～中旬」に行う。

(ア) 薬剤散布

散布時期	殺菌剤	殺虫剤	散布量 /10 a
落花30日後頃	オーソサイド水和剤80 800倍	—————	3500
	又はイオウフロアブル 500倍		
6月上～中旬	イオウフロアブル 500倍	—————	3500

(イ) 灰星病対策

あんずでは灰星病が発生しやすいので、収穫前にオーシャイン水和剤3,000倍を特別散布する。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

黒星病徹底防除推進期間中（4月～6月）

りんご黒星病の撲滅に向け、適期適量散布による薬剤防除に加え、菌密度を下げるための落葉処理等の耕種的防除にも取り組みましょう。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

《 りんご共済や農業経営収入保険に加入しましょう！ 》

○りんご共済

「りんご共済」は、風・ひょう・霜などの自然災害等により損害が生じた場合に共済金が支払われる制度です。

○農業経営収入保険

平成31年から新たに始まる「農業経営収入保険」は、農業者が自ら生産した農産物の販売収入全体を対象とし、自然災害に加え、価格低下などにより収入が一定割合以上減少した場合に補填金が支払われる制度です。

加入には、青色申告が条件となっており、平成31年分の申請は、30年10月から11月となっています。

※詳しくは、地域の農業共済組合にお問い合わせください。

日本一健康な土づくり強化月間（平成30年4月～5月、9月～11月）
安全・安心な農産物を安定して生産するためには、土づくりが重要です。堆肥の施用や土壌診断などにより、健康な土づくりに取り組みましょう。

青森県農薬危険防止運動展開中！（5月1日～8月31日）

農作業事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

霜害対策を万全に！

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

次回の「特産果樹生産情報」第4号は6月28日（木）発表の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5092, 5094
 017-734-9492直通